

【畜産】【飼料作物】の【台風】対策について

<5～6月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【畜産全般】

(1) 予想される被害

- ・ 畜舎や堆肥舎等の施設の倒壊や破損、大雨による浸水
- ・ 停電による自動給餌器の停止、バルククーラー等搾乳に関する設備や汚水処理システム等の機器類の停止等
- ・ 断水による家畜への給水停止
- ・ 放牧牛が土砂災害に巻きこまれる

(2) 事前対策

- ・ 畜舎の点検を行い、破損箇所については事前に修繕しておく。
- ・ 防風対策を十分に行い、特に開閉部はしっかりと固定するなど、補強や対策を実施する。
- ・ 開放型の畜舎については雨の打ち込みを避けるためカーテン等を下ろして固定し、できるだけ床が湿らないように対策をとる。
- ・ 特に山間部では、道路の通行止めが予想されるため、資材・飼料（配合飼料、粗飼料、青刈り、サイレージ）等は、余裕をもって準備する。
- ・ 停電が予想されるので、発電機の手配とともに、試運転を行っておく。
- ・ 特にウインドウレス畜舎では、非常用発電機の燃料の確保と点検を行い、停電時に換気扇が停止しないように注意する。
- ・ 断水の可能性がある場合には、最小限の飲水量を給水タンク等で確保する。
- ・ 台風の大きさによっては、放牧牛を畜舎につれて帰る。

(3) 事後対策

- ・ 浸水した畜舎は、疾病等の発生を防止するために、台風通過後速やかに消毒する。
- ・ 敷料がぬれた場合は、速やかに乾いたものと交換する。
- ・ 台風通過後は、急激に気温が上昇し湿度が上がることがあるので、暑熱の影響を受けやすい肥育牛、乳牛、肥育豚及び出荷前のブロイラー等においては、畜舎を開放するなど換気に努める。

【飼料作物】

(1) 予想される被害

- ・ 発芽間もない飼料作物について、長期間の冠水による湿害

(2) 事前対策

- ・ ほ場周辺に排水溝を設置し水が貯まりにくいようにする。

(3) 事後対策

- ・ ほ場が冠水した場合は速やかに排水する。